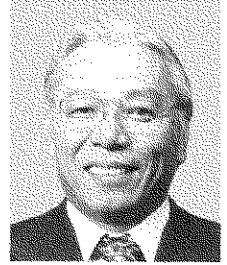


ごあいさつ



今年に入って新聞、雑誌にニューガラスの製品開発発表や解説記事等が話題として大きく取扱われるケースが増えてまいりました。

私のところにも報道関係の方々から取材攻勢があいついでおりますが、このことはニューガラスが新素材として関係者から大きく注目されているあらわれではないかと思っております。

しかし、ニューガラスをもっと広く一般の方々にもご理解いただけるように、ニューガラスフォーラムの活動状況を広範囲にPRする必要があると考え、このたび広報活動の一環として機関誌「NEW GLASS」を発刊することになりました。

ニューガラスフォーラムが今日に至るまでの経過を振り返ってみますと1980年代に入り、オプトエレクトロニクス、バイオ、新エネルギー、宇宙・海洋開発などの新し

い産業が台頭し、これに伴って新素材に対する要求が高まってきました。これらの新素材としてはファインセラミックス、機能性高分子材料などが早くから注目されていましたが、これに匹敵する新素材として高機能性ガラスが一部の研究者から注目され、大学、国立研究機関、民間研究所などで研究され始めました。

かねてから私はこの種の新しいガラスについて強い関心を持っておりました。この新しい芽を育てて、これを21世紀のガラス産業のターゲットにしたいと考え、日本硝子製品工業会の皆様にニューガラスの研究を始めるべく呼びかけたのであります。これが実って昭和55年、同工業会にニューガラス委員会がスタートし、大学教授をはじめ、研究者の方々を交えてこれからのニューガラスに対する期待や、海外の開発状況などについて勉強会を5年ほど続けました。そ

して今日ではニューガラスの可能性について確信を深めております。

しかし、ニューガラスのもつ新しい特性、有用性をガラス産業だけで研究するのではなく、もっと他の産業界との共同研究をすすめることが必要であると考え、通商産業省に産、官、学の連合体をつくっていただきたいとお願ひしたところ、非常に熱心にご支援を賜り、私の予想より短期間に、強力なメンバーでこのニューガラスフォーラムが誕生したわけであります。

昭和60年7月ニューガラスフォーラムが誕生して約1年を経過しましたが、会員も国内のみならず海外からも有力企業のご参加をいただき、84社となりました。フォーラムの活動も皆様方のご協力とご支援をいただきて軌道に乗ってまいりました。この夏にはニューガラスの技術動向、市場動向およびニューガラスの育成策に関する提言などをとりまとめた調査研究の中間報告ができるように作業を進めております。ニューガラスフォーラムが昭和61年度に推進する具体的事業としましては、

- ①研究開発課題の探索等の調査研究。
- ②ニューガラスに関する振興政策などの提言。

- ③ニューガラスに関するセミナー、研究会、国際交流および機関誌発行等の啓蒙普及活動。

などを中軸としております。通商産業省、工業技術院、関係官庁、その他の機関と連携を密にし、ご協力をいただきながらニューガラスの育成に全力をつくしていきたいと考えております。

ニューガラスフォーラムの活動が契機となって、この分野における研究開発体制、環境の整備が進み、若い研究者、技術者のニューガラスに対する意欲が盛り上がり、活躍の場が広がることによって、優秀な人材がこの分野に集まることも期待しております。また、ニューガラスが高度先端技術産業、新素材産業として発展することによって、生活文化への貢献に寄与するものと期待しております。今後とも皆様方の一層のご協力とご支援をお願いいたしたいと存じます。

ニューガラスフォーラム
代表世話人

鈴木 哲夫